

令和4年度 瑞穂台小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の教育を基盤として，よい校風の樹立と21世紀を担う人づくりを目指し，社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい人間の育成を図る。

(2) 具体目標

- よく考え，自ら学ぶ子
- 心豊かで，思いやりのある子
- 自ら行動し，たくましい子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

本校教育の基本理念を示す合い言葉「よく学び 心のふるさと みずほだい」を家庭・地域と共有し，「学び」と「心のふるさと」を全教育活動の柱として，知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指す。

【目指す学校像】 ○ 学び（個の成長）のある学校 ○ 居場所（認められる場所）のある学校

【目指す教師像】 ○ 児童を尊重する教師 ○ 授業改善に取り組む教師
○ 危機管理意識を備えた教師 ○ 異なる立場を理解する教師

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

○[瑞穂野地域学校園教育ビジョン]

9年間の連続した学びの中で，
生きる力（確かな学力，健やかな体，豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育
～小中連携による小学校高学年における教科担任制の推進～

- (1) 児童一人一人が自分の良さを発揮し，学校生活への充実感や自己有用感を感じることのできる学校づくり（学年・学級経営）に努める。
- (2) 確かな学力の向上を目指し，基礎・基本の確実な定着と主体的・協働的に学習に取り組む態度の育成に努める。
- (3) 自他の生命を尊重し，健康で安全な生活を送れるよう，自ら進んで体力づくりや望ましい生活習慣を身に付ける力の育成に努める。
- (4) 児童一人一人の教育的ニーズを把握し，その実態に応じた丁寧な支援に取り組むことができるよう，特別支援教育の推進に努める。
- (5) 教職員が各自の持ち味を発揮しながら，組織的・計画的に教育活動の推進に努める。
- (6) 教育者としての使命感を自覚し，研究・研修，日常の相互研鑽等を通して，人権意識の高揚と指導力の向上に努める。
- (7) 危機管理意識の向上を図り，職員相互の連携による安心安全な教育環境の実現に努める。
- (8) 地域学校園における小・小中の交流・連携により，児童の確かな学力や豊かな社会性・人間性を育むための小中一貫教育の推進に努める。
- (9) 働き方改革の推進に向けて，勤務時間を意識しながら校務の明確化や効率化を図ると共に，教職員の健康管理に努める。

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，学校教育法施行規則，小学校学習指導要領に示された，教育の目標な内容，栃木県教育委員会「指導の指針」，第2次宇都宮市学校教育推進計画，第2次宇都宮市学校教育スタンダード，令和4年度指導の重点を踏まえた教育課程を編成する。
- (2) 教育活動全体を通して，教科等の目標や内容を見通し，学習の基盤となる資質・能力（言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成に向け，小中一貫教育の視点を生かしながら教育課程を編成する。
- (3) 児童の発達の段階や実態，地域の実態を適切に把握し，教科横断的な学習の充実，必要な人的・物的体制の確保，教育課程の実施状況に基づく改善などを通して，学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努め，学校教育目標の達成を目指す。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 本校の合言葉「よく学び 心のふるさと みずほだい」の具現化を目指す。 ・○児童・学校・家庭・地域が一体となった合言葉の共有による「わがまちの学校」の経営 ・コロナ禍において、これまでの学校の当たり前を見直しつつ、豊かなかかわりを生む教育活動の充実 ・ゆとりをもって児童と向き合うことができる働き方改革の推進 (2) 学習指導 主体的・協働的に学び合える児童の育成に努める。 ・安心して考えを表出できる学習集団と基本的な学習態度・習慣の形成 ・活用できる知識・技能の習得と、思考力・活用力の育成を目指した授業づくり ・自分の学びが意識できる学習過程の工夫（宇都宮モデルに基づく授業改善） ・○教科担任制による学習活動の充実 (3) 児童指導 自分を大切にするとともに、他者の存在を尊重する心豊かな児童の育成に努める。 ・自己有用感を育てるための、認め励ます教育の推進 ・自ら判断し、自己決定できる場の保障 ・○心地よいあいさつを交わし、相手の気持ちに配慮した言葉遣いができる人間関係の醸成 ・いじめゼロを目指した未然防止及び早期発見と組織的対応 (4) 健康（体力・保健・食・安全） 自らの健康・安全を考え、目標に向かって継続して挑戦する児童の育成に努める。 ・○教科体育の充実と各種運動・遊びの日常化に向けた指導の充実 ・自分の命を守る判断力を身に付けるための、安全教育の推進 ・自らの健康を管理する力を身に付けるための、保健教育と食育の推進
--

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①自分の考えを書く力が高まってきており、意欲的に取り組んでいる。ペア学習やグループ学習を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の研究を進め、既習内容を生かして自分の考えを持つことができるような課題を設定したり、「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を授業の中に位置づけたりする。 ②「自分の考えを相手にわかりやすく伝える話し方」が少しずつ身についてきているので、相手意識をもち、目的意識をもって対話できるように発達段階に応じた指導を継続的に行う。	B B	【達成状況】 A 1については、保護者の肯定的回答が90%で目標と同率であったが、前年度を1.5ポイント下回り、市平均を0.8ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①引き続き、ペア学習やグループ学習を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の研究を進め、既習内容を生かして自分の考えを持つことができるような課題を設定したり、「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を授業の中に位置づけたりする。 ②引き続き、相手意識をもち、目的意識をもって対話できるように必然性のある課題の設定や、発達段階に応じた指導を継続的に行う。

姿 目 指 す 児 童 の 姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①道徳の時間を中心に、学級活動などでも心を育む場を意図的に設け、相手の気持ちを考えた言動ができるよう、児童の実態に応じた指導に努める。 ②「みず台3つの約束」を朝会で扱い、児童の意識化を図る。 ③人権週間や教育相談の充実を図る。 ④問題行動の早期発見・対応に努めるために、職員間の連携を密にし、組織力を生かして取り組む。	【達成状況】 A 2については、保護者の肯定的回答が94.8%で目標を達成した。前年度を4.8ポイント、市平均を0.2ポイント上回った。 ※A 1 1と同一設問 【次年度の方針】 A ①道徳の時間を中心に、学級活動、「心を育む時間」を通して心を育む場を意図的に設け、相手の気持ちを考えた言動ができるよう、児童の実態に応じた指導に努める。 B ②「みず台3つの約束」を朝会で扱い、児童の意識化を図る。 B ③人権週間や教育相談の充実を図る。 B ④「教育相談」等を利用し問題行動の早期発見・対応に努めるとともに校内委員会等を開催し、職員間の連携を密にし、組織力を生かして取り組む。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活している。 【数値指標】 「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①「みず台3つの約束」を児童指導の柱として学年の実態に応じた生活目標を設定し、日常生活の中で児童に意識させながら引き続き指導していく。 ②よい子の一日やよい子の学習のきまりを活用して、今後も学校生活におけるきまりやマナーについて児童の意識を高めていく。	【達成状況】 A 3については、児童の肯定的回答が84.8%で目標を達成することができなかった。前年度を1.9ポイント、市平均を4.6ポイント下回った。 【次年度の方針】 B ①「みず台3つの約束」を児童指導の柱として学年の実態に応じた生活目標を設定し、日常生活の中で児童に意識させながら引き続き指導していく。 B ②児童指導部会を中心に、よい子の一日やよい子の学習のきまりを活用して、きまりやマナーの意義を考えられる機会を設けるなどして意識の高揚を図る。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①保護者、教職員、児童の肯定的回答は昨年度より上がっている。今後も教職員が率先してあいさつを行うとともに、日常の指導の中で「みず台3つの約束」の「だれにもあいさつ」を掲げながら児童の意識化を図っていく。 ②児童会を中心に放送で呼びかけたり、当番児童はたすきを着用してあいさつ運動に参加したりして、今後もさらに力	【達成状況】 A 4については、保護者の肯定的回答が81.7%で目標を達成した。前年度を4.2ポイント上回ったが、市平均を3.1ポイント下回った。 【次年度の方針】 B ①今後も教職員が率先してあいさつを行うとともに、日常の指導の中で「みず台3つの約束」の「だれにもあいさつ」を掲げながら児童の意識化を図っていく。また、「だれにも」の対象者を具体的に明示し指導に当たっていく。 B ②児童会を中心に放送で呼びかけたり、当番児童はたすきを着用してあいさつ運動に参加したりして、今後もさらに力を入れて

目 指 す 児 童 の 姿		を入れてあいさつ運動を行っていく。また、運営委員会児童による業間や昼休みのあいさつ巡回も継続して行っていく。 ③「みず台3つの約束」の「正しい言葉づかい」を掲げ指導を継続すると共に、学年だよりの「心のふるさと」にも盛り込むことで家庭や地域との連携を図りながら指導を進めていく。		あいさつ運動を行っていく。また、運営委員会児童による業間や昼休みのあいさつ巡回も継続して行っていく。 B ③「みず台3つの約束」の「正しい言葉づかい」を掲げ指導を継続すると共に、学年だよりの「心のふるさと」にも盛り込むことで家庭や地域との連携を図りながら指導を進めていく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①学校教育目標や学年目標をふまえ、学期や行事ごとに個人目標を掲げさせ、それを達成するために自己評価を進めるとともに、その都度振り返る機会を設ける。 ②各種検定表をもとに補助具等を活用するとともに、長期休暇中に課題として取り組ませるなど、学校と家庭で連携しながら児童の意欲を高めるように支援する。 ③「宮っ子心の教育表彰」や「学校長表彰」を活用し、児童の良さや努力等を認め励ます教育を推進する。		【達成状況】※A7と同一設問 A5については、児童の肯定的回答が89.2%で目標を達成することができなかった。前年度を0.9ポイント、市平均を0.6ポイント下回った。 【次年度の方針】 A5はA7と同一設問で評価するため、次年度は共通の対象者・指標に修正する。(対象者：保護者) ①学校教育目標や学年目標をふまえ、学期や行事ごとに個人目標を掲げさせ、それを達成するために自己評価を進めるとともに、その都度振り返る機会を設ける。また、可能な範囲で保護者と目標や成果を共有できるよう努める。
				B ②各種検定表をもとに補助具等を活用するとともに、長期休暇中に課題として取り組ませるなど、学校と家庭で連携しながら児童の意欲を高めるように支援する。
				A ③児童の良さや努力等を認め励ます教育を推進するとともに、各種便りやHP等で「目標に向かって努力している様子」や「粘り強く取り組んでいる様子」を積極的に発信する。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①健康診断の結果のお知らせや小中一貫の健康票の活用、養護教諭の保健指導を通して、自分の健康に関心がもてるようにする。 ②災害や不審者を想定した避難訓練を実施し、児童自らが危険を予測し回避できる能力の育成を図る。 ③外遊びを推奨させるとともに、「校庭		【達成状況】 A6については、児童の肯定的回答が92.9%で目標を達成したが、前年度を2ポイント、市平均を1.1ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①健康診断の結果のお知らせや受診のすすめ通知の配付など、個に配慮した関わりや養護教諭を中心とした保健指導を通して自分の健康に関心が持てるようにする。 B ②災害や不審者を想定した避難訓練を実施し、児童自らが危険を予測し回避できる能力の育成を図る。 B ③外遊びを推奨するとともに、「校庭で遊ぶ

	で遊ぶときのきまり」を周知させ、安全に気を付けて生活させる。		ときのきまり」を周知し、安全に気を付けて生活させる。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①自己の成長を実感できるように、振り返りの場を大切にした授業を展開したり、教師が児童の成長を認め励ます機会を設定したりしていく。 ②年間活動計画の中に体験的な学習の場を設定し、協働する力を育む教育活動を推進する。 ③地域や各種団体と連携した取組の有益性を、児童や保護者に効果的に情報提供することを通して地域の行事に関心を持てるようにする。	B A A	【達成状況】※A 5 と同一設問 A 7 については、保護者の肯定的回答が70.9%で達成することができなかった。前年度を7.6ポイント、市平均を7.3ポイント下回った。 【次年度の方針】 A 7 はA 5 と同一設問で評価するため、次年度は共通の対象者・指標に修正する。(対象者：保護者) ①自己の成長を実感できるように、振り返りの場を大切にした授業を展開したり、教師が児童の成長を認め励ます機会を設定したりしていく。 ②キャリア教育を充実させるとともに、「社会の中で自分の役割を果たす必要」について意識できる教育活動を推進する。 ③地域や各種団体と連携した取組の有益性を、児童や保護者に効果的に情報提供するとともに、各種便りやHP等で「社会の中で自分の役割を果たす必要性」が身につけている様子を積極的に発信する。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①外国語活動の時間、教員が英語を使って児童とコミュニケーションを取るとともに、ゲームなどを通してALTと積極的にコミュニケーションを図る授業を展開していく。 ②英語専科教諭を中心に、児童が楽しく学習できるよう、バリエーション豊富なゲームを考えるようにする。また、児童が英語を数多く話すような場面を設定することで、英語に触れる機会を多くしていく。 ③状況を見ながらALTとの交流給食や昼休み、清掃の時間等一緒に遊ぶことで、触れ合う機会を多くもてるようにする。	B B B	【達成状況】 A 8 については、児童の肯定的回答が87.4%で目標を達成したが、前年度を1.1ポイント、市平均を2.6ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①外国語活動の時間、教員が英語を使って児童とコミュニケーションを取るとともに、ゲームなどを通してALTと積極的にコミュニケーションを図る授業を展開していく。 ②英語科担当教諭を中心に、児童が必然性を持って英語でコミュニケーションできる授業を工夫する。また、また、児童が楽しく英語に触れる機会を多くしていく。 ③状況を見ながらALTとの交流給食や昼休み、清掃の時間等一緒に遊ぶことで、触れ合う機会を多くもてるようにする。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。			【達成状況】 A 9 については、児童の肯定的回答が

【数値指標】 「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①教科等の学習の内容と関連させ、瑞穂野地区や宇都宮市の施設、歴史、食や伝統文化などに触れる機会を増やし、社会生活を営む上での利便性や先人の思いと現代の暮らしの連続性・共通性等の良さを実感できるようにする。 ②進んで地域の行事に参加するよう勧めたり、地域の伝統行事（瑞台まつり、どんどん焼き、蛍のタベなど）を紹介し、大切に継承していく心を育む。 ③百人一首や他教科の学習に宇都宮学の学習を適宜取り入れられるように工夫する。掲示物などで視覚的にとらえられる場を設ける	85.0%で目標と同率だったが、前年度を2.1ポイント、市平均を0.8ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①教科等の学習の内容と関連させ、瑞穂野地区や宇都宮市の施設、歴史、食や伝統文化などに触れる機会を増やし、社会生活を営む上での利便性や先人の思いと現代の暮らしの連続性・共通性等の良さを実感できるようにする。 ②進んで地域の行事に参加するよう勧めたり、地域の伝統行事（瑞台まつり、どんどん焼き、蛍のタベなど）を紹介し、大切に継承していく心を育む。 ③百人一首や他教科の学習に宇都宮学の学習を適宜取り入れられるように工夫する。掲示物などで視覚的にとらえられる場を設ける
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①積極的に端末を活用した授業を展開していくとともに、各メディアの特性を理解したうえで、調べ学習等での図書資料活用も行う。 ②端末で撮った写真や動画等を活用し、学習に生かしていく。	【達成状況】※A25と同一設問 A10については、児童の肯定的回答が88.1%で目標を達成したが、前年度を1.5ポイント、市平均を2.6ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①積極的に端末を活用した授業を展開していくとともに、各メディアの特性を理解したうえで、調べ学習等での図書資料活用も行う。 ②端末で撮った写真や動画、その他デジタルデータを活用し、学習に生かしていく。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①生活科や総合的な学習の時間などにおいて、高齢者と交流する活動の場を設定する。昔遊びや昔体験などの活動を通して、地域住民と交流を深め、高齢者に対する感謝の気持ちやいたわりの心を育てる。 ②高齢者へ感謝の気持ちを作文で表現できるようにする。 相手意識や目的意識をもって高齢者と接することができるようにする。	【達成状況】※A2と同一設問 A11については、保護者の肯定的回答が94.8%で目標を達成した。前年度を4.8ポイント、市平均を0.2ポイント上回った。 【次年度の方針】 ①生活科や総合的な学習の時間などにおいて、高齢者と交流する活動の場を設定する。昔遊びや昔体験などの活動を通して、地域住民と交流を深め、高齢者に対する感謝の気持ちやいたわりの心を育てる。 ②高齢者等へ感謝の気持ちを言葉で表現できるようにする。また、相手意識や目的意識をもって対象者と接することができるようにする。

	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学校農園や花壇の整備、田植えや金魚・蛍の飼育などの体験活動を通して、自然の恵みへの感謝の気持ちや命の大切さを学ばせる。 ②社会科や家庭科、総合的な学習の時間を活用し、環境問題や国際理解、防災や食をテーマとした中で、具体的なSDGsの視点を意識した学習を実践する。	【達成状況】 A12 については、児童の肯定的回答が84.6%で目標を達成した。前年度を2.5ポイント上回ったが、市平均を4ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①学校農園や花壇の整備、田植えや金魚・蛍の飼育などの体験活動を通して、自然の恵みへの感謝の気持ちや命の大切さを学ばせる。 ②社会科や家庭科、総合的な学習の時間を活用し、環境問題や国際理解、防災や食をテーマとした中で、具体的なSDGsの視点を意識した学習を実践する。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 95%以上	①校内支援委員会の定期的な開催と、職員会議後の情報交換を実施することで、特別な支援を必要とする児童に関する情報を共有し、今後も組織的に対応していく。 ②校内支援委員会及びケース会議において、かがやきルームの指導が適切であるか検討し、具体化された個別の指導計画のもと指導の充実を図る。 ③「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」を活用し適切な支援にあたる。	【達成状況】※A16と同一設問 A13 については、教職員の肯定的回答が100%で目標を達成した。市平均を1.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 ①校内支援委員会の定期的な開催と、職員会議後の情報交換を実施することで、特別な支援を必要とする児童に関する情報を共有し、今後も組織的に対応していく。 ②校内支援委員会及びケース会議において、かがやきルームの指導が適切であるか検討し、具体化された個別の指導計画のもと指導の充実を図る。 ③「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」を活用し適切な支援にあたる。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①いじめゼロ月間に「いじめ振り返り心のチェックシート5」や年5回の「いじめゼロアンケート」を実施する。また、年2回各学級で教育相談を実施することでいじめの未然防止と早期発見に努める。 ②いじめ振り返り心のチェックシートを活用し、いじめは許されない行為であることを指導する。 ③HPや児童指導だよりだけでなく、学級	【達成状況】 A14 については、児童の肯定的回答が97.9%で目標を達成した。昨年度を0.8ポイント、市平均を0.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 ①いじめゼロ月間に「いじめ振り返り心のチェックシート5」や年5回の「いじめゼロアンケート」を実施する。また、年2回各学級で教育相談を実施することでいじめの未然防止と早期発見に努める。 ②いじめ振り返り心のチェックシートを活用し、いじめは許されない行為であることを指導する。 ③HPや児童指導だよりだけでなく、学級

目 指 す 学 校 の 姿		級懇談会や学校だよりでも学校のいじめ対策方針について保護者へ積極的に発信していくとともに、いじめゼロ集会や人権週間を活用し、児童にも積極的に発信していく。学年だより「心のふるさと」コーナーを設け、各学年の取り組みや活動を知らせていくとともに、道徳や学級活動の時間にもいじめについて取り上げ指導していく。		懇談会や学校だよりでも学校のいじめ対策方針について保護者へ積極的に発信していくとともに、いじめゼロ集会や人権週間を活用し、児童にも積極的に発信していく。学年だより「心のふるさと」コーナーを設け、各学年の取り組みや活動を知らせていくとともに、道徳や学級活動の時間にもいじめについて取り上げ指導していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①関係職員や SC と共通理解を図り、連携をとって組織的に対応できるようにする。さらに、教育相談を充実させ、児童一人一人に寄り添い、居がい感のある学級経営を実践する。 ②道徳や学級活動の時間を活用して、クラスの友達との交流を深め、互いの良さに気付かせるとともに、思いやりの心を育む。 ③欠席した際には、1日の出来事や学習内容を手紙にして届けるとともに、電話で連絡をしたり、家庭訪問をしたりして児童の様子を確認する。	B B B	【達成状況】 A15 については、児童の肯定的回答が 95.4%で目標を達成した。昨年度を 0.8 ポイント上回ったが、市平均を 1 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①関係職員や SC と共通理解を図り、連携をとって組織的に対応できるようにする。さらに、教育相談を充実させ、児童一人一人に寄り添い、居がい感のある学級経営を実践する。 ②道徳や学級活動の時間を活用して、クラスの友達との交流を深め、互いの良さに気付かせるとともに、思いやりの心を育む。 ③欠席した際には、1日の出来事や学習内容を手紙や端末での連絡を使って伝えけるとともに、電話で連絡をしたり、家庭訪問をしたりして児童の様子を確認する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①外国人児童の編入の面接時、日本語の習得状況により、編入前にはばたき教室への通級を勧めるとともに、母国語で日本語を指導する母国語指導者や日本語による日本語指導のボランティアを依頼するなどして支援にあたる。 ②保護者への通訳や保護者への通知文の翻訳を市教委へ依頼する。	B B	【達成状況】※A13 と同一設問 A16 については、教職員の肯定的回答が 100%で目標を達成した。市平均を 1.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ①外国人児童の編入の面接時、日本語の習得状況により、編入前にはばたき教室への通級を勧めるとともに、母国語で日本語を指導する母国語指導者や日本語による日本語指導のボランティアを依頼するなどして支援にあたる。 ②保護者への通訳や保護者への通知文の翻訳を市教委へ依頼する。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 「私は、今の学校が好きです」	①個々の良さを認めるとともに自ら思考・判断できる場を保障することで、児童一人一人	B	【達成状況】 A17 については、児童の肯定的回答が 90.1%で目標を達成したが、昨年度を 1 ポイント、市平均を 0.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①個々の良さを認めるとともに自ら思考・判断できる場を保障することで、児童一人一人

目 指 す 学 校 の 姿	⇒児童の肯定的回答 90%以上	童一人一人が居がいのある教室を目指し、学級経営をさらに充実させる。 ②楽しく分かる授業の工夫をしたり、さまざまな教科で話し合い活動を重視したりする中で、児童一人一人が居場所のある学級・学校づくりをさらに目指す。 ③なかよし瑞穂野などの異年齢集団活動を進め、また、児童会活動を充実させる。児童一人一人の主体的な活動を促し、自分の良さが発揮できるようにする。	一人が居がいのある教室を目指し、学級経営をさらに充実させる。 B ②楽しく分かる授業の工夫をしたり、さまざまな教科で話し合い活動を重視したりする中で、児童一人一人が居場所のある学級・学校づくりをさらに目指す。 B ③なかよし瑞穂野などの異年齢集団活動を進め、また、児童会活動を充実させる。児童一人一人の主体的な活動を促し、自分の良さが発揮できるようにする。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「教職員は、児童生徒一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①「めあて」の明確化と「振り返り」の充実を図り、児童が授業で学びを実感、自覚できるようにする。 ②ノート作りにおいては、学年等で共通理解を図り、大きな差が生じないよう運用をするとともに、分かったことをまとめるだけでなく、思考表現の場としても活用できるようにする。 ③学習で使う言葉・用語について、教科の内容に即して児童が正しく覚えて活用できるように指導の徹底を図る。 ④習熟度別学習では、基礎・基本の定着をさせるだけでなく、児童がより学力を活用し伸びるような授業の工夫をしていく。 ⑤学力向上に向けた取組について、HPや懇談などで保護者にも発信しながら啓発を行う。	【達成状況】 A18については、保護者の肯定的回答が84.7%で目標を達成することができなかった。昨年度を0.1ポイント、市平均を1.6ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①「めあて」の明確化と「振り返り」の充実を図り、児童が授業で学びを実感、自覚できるようにする。 B ②ノート・端末活用においては、学年等で共通理解を図り、大きな差が生じないよう運用をするとともに、分かったことをまとめるだけでなく、思考表現の場としても活用できるようにする。 B ③学習で使う言葉・用語について、教科の内容に即して児童が正しく覚えて活用できるように指導の徹底を図る。 B ④習熟度別学習では、基礎・基本の定着をさせるだけでなく、児童がより身に付けた学力を活用し伸びるような授業の工夫をしていく。 B ⑤学力向上に向けた取組について、HPや懇談などで保護者にも発信しながら啓発を行う。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」	①学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図る。	【達成状況】 A19については、教職員の肯定的回答が100%で目標を達成した。前年度を9.7ポイント、市平均を3.6ポイント上回った。 【次年度の方針】 ①各部会の活動を活性化することで、学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図る。 A

目 指 す 学 校 の 姿	⇒教職員の肯定的回答 90%以上	②学校図書館司書，学校栄養士，特別支援学級非常勤嘱託員，かがやきルーム指導員，スクールカウンセラー等と連携した取組の充実を図る。	B	②学校図書館司書，学校栄養士，特別支援学級非常勤嘱託員，かがやきルーム指導員，スクールカウンセラー等と連携した取組の充実を図る。
	A20 学校は，教職員の勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。	③インターネットバンキングや学校徴収金システム等を活用し， <u>地域学校園の事務職員が連携して学校事務を共同実施し，業務の負担軽減に努める。</u>	B	③インターネットバンキングや学校徴収金システム等を活用し， <u>地域学校園の事務職員が連携して学校事務を共同実施し，業務の負担軽減に努める。</u>
	【数値指標】 「学校は，教職員の勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①校務分掌の偏りがないようにするとともに，内容を精選し見直しを図る。 ②学校行事ごとの反省をもとに，次年度効率的に実施できるよう，改善を図る。 ③職員会議や打ち合わせの際には，終了の時間を設定したうえで実施する。また，データで周知しペーパーレスを目指すことで，負担の軽減を図る。説明や検討の必要のない議題は，掲示板を活用する。 ④毎月，リフレッシュデーを設定する。その日の放課後は，会議や研修の予定を入れず，意識して勤務するようにする。	B B B B	【達成状況】 A20 については，教職員の肯定的回答が90.6%で目標を達成した。前年度を0.3ポイント，市平均を8.2ポイント上回った。 【次年度の方針】 ①校務分掌の偏りがないようにするとともに，内容を精選し見直しを図る。 ②学校行事ごとの反省をもとに，次年度効率的に実施できるよう，改善を図る。 ③職員会議や打ち合わせの際には，終了の時間を設定したうえで実施する。また，データで周知しペーパーレスを目指すことで，負担の軽減を図る。説明や検討の必要のない議題は，掲示板を活用する。 ④リフレッシュカレンダーを活用し，個々の状況に合わせて柔軟にリフレッシュデーを設定することで，自己の働き方をマネジメントできるようにする。
	A21 学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は，小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① <u>児童生徒指導強化連絡会や小中連携学校行事などを大切にし，児童の育成を図る。</u> ② <u>学校間の相互支援による学校事務の効率化を図る。</u> ③学校便りをはじめ各種のお便りやホームページで，活動を紹介し，理解を深める。	B B B	【達成状況】 A21 については，保護者の肯定的回答が74.3%で目標を達成することができなかった。昨年度を3.3ポイント上回ったが，市平均は4.6ポイント下回った。 【次年度の方針】 ① <u>児童生徒指導強化連絡会や小中連携学校行事などを大切にし，児童の育成を図る。</u> ② <u>学校間の相互支援による学校事務の効率化を図る。</u> ③学校便りをはじめ各種のお便りやホームページで，活動を紹介し，理解を深める。また， <u>学校園で作成した通知については，学校園で作成したことを明示する。</u>
	A22 学校は，地域の教育力を生かした特色あ			【達成状況】※A23と同一設問 A22 については，保護者の肯定的回答が

	る教育活動を展開している。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①直接学校へ来るスタイル以外の支援の形を検討していきながら、可能な範囲で地域ボランティアを活用していく。 ②出前授業リストなどを活用し、学年に応じた特色ある教育活動を展開していく。 ③学校での取組を学校のホームページや学年だより等で、保護者にも発信しながら啓発を行う。	86.1%で目標を達成した。昨年度を2.7ポイント上回ったが、市平均を1.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 B ①社会や生活科、総合等様々な学習に地域ボランティアを活用し開かれた学校、地域の学校を目指す。 B ②出前授業リストなどを活用し、学年に応じた特色ある教育活動を展開していく。 B ③学校での取組を学校のホームページや学年だより等で、保護者にも発信しながら啓発を行う。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①今年度同様、保護者による登校指導、地域ボランティアや教職員による下校指導を充実させる。また、地域や保護者の意見に耳を傾け、できるかぎりの安全確保に努める。 ②可能な限り学校行事・授業参観・オープンスクール・土曜授業等で児童の多様な教育活動の様子がみられるように学校を公開できるよう工夫していく。 ③可能な限り地域ボランティアを積極的に活用し、地域の歴史や自然、産業等について話をしてもらうことで、郷土愛を育てていく。	【達成状況】※A22と同一設問 A23については、保護者の肯定的回答が86.1%で目標を達成した。昨年度を2.7ポイント上回ったが、市平均は1.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 B ①保護者による登校指導、地域ボランティアや教職員による下校指導を充実させる。また、地域や保護者の意見に耳を傾け、できるかぎりの安全確保に努める。 B ②学校行事・授業参観・オープンスクール・土曜授業等で児童の多様な教育活動の様子がみられるように学校を公開できるよう工夫していく。 B ③地域ボランティアを積極的に活用し、地域の歴史や自然、産業等について話をしてもらうことで、郷土愛を育てていく。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①学校施設・設備について、事故の原因になる危険箇所を未然に発見し、それらを速やかに除去し、児童が学校生活を安全に送れるようにする。 ②毎月1回、全職員が点検担当場所を点検し、修理改善等が必要な場合には、早急に処置する。	【達成状況】 A24については、保護者の肯定的回答が92.8%で目標を達成した。前年度から3.8ポイント、市平均から1.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 B ①学校施設・設備について、事故の原因になる危険箇所を未然に発見し、それらを速やかに除去し、児童が学校生活を安全に送れるようにする。 B ②毎月1回、全職員が点検担当場所を点検し、修理改善等が必要な場合には、早急に処置する。

		③児童が安全に学校生活を送れるように、点検日以外にも日常の安全点検を心がける。	B	③児童が安全に学校生活を送れるように、点検日以外にも日常の安全点検を心がける。
	A 25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①各教科等において、端末を効果的に活用していくとともに学校図書館司書と連携し学習に必要な図書を充実させる。 ②課題の発見や解決のために必要な資料等を、市立図書館や地域学校園内の学校から借りるなどして連携を図り、充実した学習ができるようにする。 ③日常的かつ効果的な端末の活用の仕方を研修するなどして授業で生かせるようにする。	B B B B	【達成状況】※A10と同一設問 A25については、児童の肯定的回答が88.1%で目標を達成したが、前年度を1.5ポイント、市平均を2.6ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①各教科等において、端末を効果的に活用していくとともに学校図書館司書と連携し学習に必要な図書を充実させる。 ②課題の発見や解決のために必要な資料等を、市立図書館や地域学校園内の学校から借りるなどして連携を図り、充実した学習ができるようにする。 ③日常的かつ効果的な端末の活用の仕方を研修するなどして授業で生かせるようにする。
本校の特色・課題等	B1 児童は、友達の意見をよく聞き、話し合っている。 【数値指標】 「わたしは、友達の意見をよく聞き話し合っている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①国語を中心に適切な話し方・聞き方の定着を図るとともに各教科等で話し合う必然性のある場の設定を行う。 ②可能な限り、各教科で機会をとらえて、小グループでの話し合い活動の場を設ける。また、端末を使った意見交換の機会も意図的に設定する。 ③可能な限り、朝の会・帰りの会でスピーチの時間を位置づけるなどし、常時活動として言葉でやりとりをする場を設ける。	B B B	【達成状況】 B1については、児童の肯定的回答が91.0%で目標を達成した。昨年度を1.7ポイント上回った。 【次年度の方針】 ①国語を中心に適切な話し方・聞き方の定着を図るとともに各教科等で話し合う必然性のある場の設定を行う。 ②各教科で機会をとらえて、小グループでの話し合い活動の場を設ける。また、端末を使った意見交換の機会も意図的に設定する。 ③朝の会・帰りの会でスピーチの時間を位置づけるなどし、常時活動として言葉でやりとりをする場を設ける。
本校の特色・課題等	B2 児童は、縦割り班やグループで、協力し合って活動している。 【数値指標】 「わたしは、縦割り班やグループで協力し合って活動している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①縦割り班活動の内容を事前に教師が共通理解した上で支援し、児童が活動に見通しを持って主体的に取り組めるようにする。 ②縦割り班活動の中に学び合いの活動を取り入れ、上級生の自覚とリーダー性を養う。	B B	【達成状況】 B2については、児童の肯定的回答が91.3%で目標を達成した。昨年度を0.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 ①縦割り班活動の内容を事前に教師が共通理解した上で支援し、児童が活動に見通しを持って主体的に取り組めるようにする。 ②縦割り班活動の中に学び合いの活動を取り入れ、上級生の自覚とリーダー性を養う。

B3 児童は、自分の考えや友達の考えなどの情報を整理し、考える力についている。 【数値指標】 「児童は考える力が付いてきている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①児童の学びの跡が残るように、児童の発達段階に応じて、分かりやすく記録するような思考の見えるノートの書き方の指導を進めていく。 ②振り返りにおいて、「かがやくわ」を活用して、考えて学んだことを確認できるようにする。振り返りで出た児童の意見を取り上げて、具体的な場面での活用を意識させる。 ③引き続き、言葉の正しい使い方を指導し、話し言葉と書き言葉の使い分けができるようにする。	【達成状況】 B3については、保護者の肯定的回答が83.6%で目標を達成した。昨年度を19.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 B ①児童の学びの跡が残るように、児童の発達段階に応じて、分かりやすく記録するような思考の見えるノートの書き方の指導を進めていく。 B ②振り返りにおいて、「かがやくわ」を活用して、考えて学んだことを確認できるようにする。振り返りで出た児童の意見を取り上げて、具体的な場面での活用を意識させる。 B ③各教科等で課題解決の単元展開を意識し、様々な情報を思考に生かす必然性のある授業を工夫する。
--	---	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全28項目中、数値指標を達成したのは21項目、同率が2項目、残り5項目が未達成であった。

目標を達成し、さらに前年度及び市平均を上回った項目は、A2・A11「児童は、思いやりの心をもっている。」「児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。」A14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」A19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」A24「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」であった。

A2・A11については、保護者の肯定的回答が、前年度を4.8ポイント上回り、児童に思いやりの心が育ってきていると考えられる。

また、本校独自の項目であるB1「児童は、友達の意見をよく聞き、話し合うことができています。」B2「児童は、縦割り班やグループで、協力し合って活動している。」B3「児童は、自分の考えや友達の考えなどの情報を整理し、考える力についている。」については、すべての項目で前年度を上回った。

特にB3については保護者の肯定的回答が83.6%で昨年度から19.5ポイントアップと大きく上回った。教育活動の中で、ICT等のツールを活用したり、グループ活動等、学びあう場の設定・工夫を行ったりしてきたことが結果に結びついたと考えられる。

一方、A3「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」A5・A7「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」「児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。」A18「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」においては、肯定的回答が前年度を下回り、目標を達成することができなかった。

A5・A7については、保護者、児童とも肯定的回答が前年度を下回り7.6ポイント、市平均を7.3ポイント下回った。

世の中の閉そく感によって夢や目標を持ちづらかったり、目標を高く定めているため届くための道のりが遠く感じられたりするなどの要因が考えられる。学校・児童・保護者・地域で目標を共有したり、スモールステップであっても「できた」「がんばった」という場面が称賛されるような機会を増やしたりして、改善につなげたい。

7 学校関係者評価

- ・肯定的回答率については、全体を通してよい結果だと感じる。
 - ・何を見て評価するのか曖昧な項目もあり回答が難しい。
 - ・「宇都宮の良さ」について児童に知ってもらうためには、まず保護者に宇都宮の良さを再発見してもらうとよいのではないかな。
 - ・いじめ対策には引き続き取り組んでほしい。
 - ・新たに注目されているヤングケアラー対策にも取り組んでほしい。
- タブレット学習について、
- ・検索の仕方は分かっているが、自分が求めている情報を探したり、信頼できる情報を得たりすることに課題があるのではないかな。
 - ・膨大な情報の中から必要な情報を得る能力を身につけることが必要だと感じる

- ・小学生特に低学年の子供にはそのための知識や経験が不足している。
- ・基礎学力を上げることの重要性とネットリテラシー教育の必要性を感じる。

学校と地域について

- ・児童の感染対策が重要だが、工夫して学校行事等の地域開放を進めてほしい。
- ・学校と地域との関係が薄れてしまうと地域と連携した教育活動の持続が難しくなってしまうのではないか。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・感染症対策を施しながらも、様々な教育活動の再開を模索してきた年度であった。次年度はさらにコロナ以前の活動に戻っていくことが想定されるが、学校重点目標や児童の実態等に合わせ、それぞれの教育活動の本来の目的や効果等を再検証し、学校・児童・保護者・地域にとって有意義な教育活動が実現できるようにしていく。

・学習指導においては、引き続き、主体的・協働的に学び合う場の設定、場の工夫等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現に向かった授業の研究を進め、既習内容を生かして自分の考えを持つことができるような課題を設定したり、「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を授業の中に位置づけたりし、学力の向上を図る。同時に一人一台端末の効果的な活用を推進し、探究的な学びや社会とつながる協働的な学びを進めていく。

・「心を育む時間」や「みず台3つの約束」等を活用して、児童にとって居場所のある学校になるよう努めていく。また、児童が進んであいさつができるように、あいさつ運動を推進するとともに、「誰にでもあいさつ」を心掛けさせながら、具体的対象者も確認させることで意識を高めていけるようにする。

・児童が夢や目標に向かって粘り強く取り組むことができるよう、可能な範囲で保護者と目標や成果を共有できるよう努めるとともに、各種便りやHP等で「目標に向かって努力している様子」や「粘り強く取り組んでいる様子」を積極的に発信していく。

・「地域の教育力を生かした特色ある教育活動を」「家庭・地域・企業等との連携・協力」に関わる項目については、評価対象者間の肯定的回答率との差が大きいことから、教育活動の実施方法、目標や内容の共有、周知等についてさらに検討改善を進めていく。